



発行：「理系大好き」プロジェクト
 発行事務：理数強化プロジェクト委員会
 発行日：2021年11月1日 第8号

…今回は『滝山城』の話（続）です。

たきやまじょう
滝山城の戦いまでの動き

永禄11（1568）年、甲斐（今の山梨県）の甲府の躑躅ヶ崎館にいた武田信玄は、三河（今の愛知県）の徳川家康と連絡をとります。それは、駿河（今の静岡県中部）の今川氏真を東西から挟み撃ちにする作戦の約束をとっているためでした。

それまで武田氏は、北条氏と今川氏と同盟を結んでいたもので、その約束を破るような行動を起こしたのです。

この知らせに、武田氏と今川氏の間にいた北条氏はびっくりします。これに対し、北条氏は昔から同盟関係にある今川氏を助けることを決めます。そして、武田氏と対立している上杉氏に助けを求めることを決めます。（上杉氏とは、1560年の小田原城の戦いで、戦った相手です。）そして、今川氏も上杉謙信に連絡を取り、武田氏の背後から攻め込んで欲しいお願いをしています。ここで今川氏を助けることを決めた北条氏は、武田信玄と戦わなくなりました。



たきやまじょう
1569年滝山城の戦い
武田信玄はどのように軍を動かしたのか

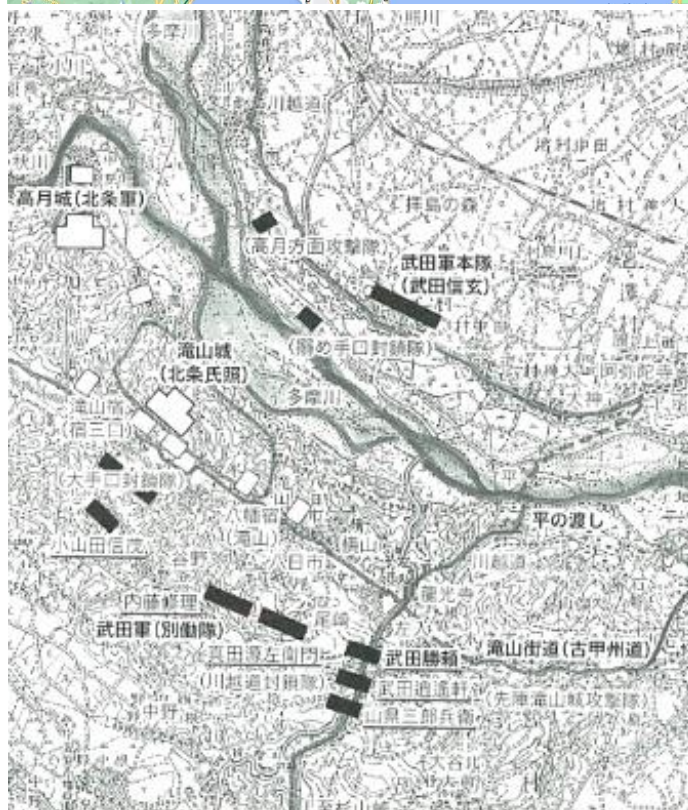
永禄12（1569）年、7月になると、武田信玄は駿河（今の静岡県中部）に攻め込み、大宮城（今の静岡県富士宮市）を攻め落としました。

さらに、9月になると、武田信玄は北条氏の本拠地である小田原城をめざすための軍隊の準備を終えて、信濃佐久（現在の長野県）地方から関東に大軍を動かします。

さて、ここで一つ問題があります。武田信玄は、約2万の軍隊を、どのように移動させたのでしょうか？ 2万の人間と馬が歩いて移動する時の泊まる場所や水や食べ物はどうしたのでしょうか？ これだけの多くの人々が移動できる道路は、どこに通っていたのでしょうか？ 今の地図を見ながら想像してみましょう。

話は1569年に戻り。10月1日には廿里（現在の高尾駅近く）で戦いがあり、2日について滝山城の戦い（滝山合戦）が行われました。

この滝山城の戦いでの兵力は、守る北条氏照が約2千人。対する武田信玄・勝頼は約2万と、大変な差がありました。



1569年滝山城の戦い 北条氏照 vs 武田信玄／勝頼

10月2日、いよいよ滝山城を舞台にした戦いが始まります。武田信玄は、拝島の森（現在の拝島日吉神社・拝島大師）に陣を構えます。さらに本体の軍隊とは別に、滝山城の背後に武田勝頼が軍を構えました。守るは北条氏照を始め、横地監物吉信や中山勘解由家範ら北条氏照の配下の武将たち。

拝島の森に本陣を構えた武田軍は、平の渡しを越えて滝山城に攻め込みます。さて、この時の戦いは実際にどのようなものだったのでしょうか。武田氏側の資料として『甲陽軍艦』より、その戦いの内容を見てみましょう。

「武田勝頼らの猛攻により、滝山城は二の丸（地図中には「中の丸」と記載の場合もあり）まで攻め込まれ、落城寸前まで追い込まれました。ところが、北条氏照自らが槍をとり、味方をはげます。また、氏照の部下は、武田勝頼と三度槍を合わせ一步も譲らなかった。この状況を報告された武田信玄は、勝頼が討ち死にすることはあつてはならないと、撤退を決めた。小田原城攻めの前に被害を大きくしたくないと考えた信玄は、滝山城から退陣した後、小田原城を目指した」と描かれています。

一方、北条氏照が上杉謙信の部下に出した手紙には、「城下に兵を出して戦ったとある。」とあるのみです。

どちらも10月2日の滝山城での戦いを説明した文章のはずなのですが、大分書かれている内容が違いますね。実際の戦いは、どちらが書いた方に近かったのでしょうか？それぞれの文章が書かれた背景を調べてみると、どちらの方が「より事実に近いか」が分かるかもしれません。

さて、この戦いにより北条氏照は滝山城の弱点を痛感し、より守りが堅い八王子城へ移ることを決意することになったと言われています。その後、八王子城に移った北条家がどのような運命を迎えるかは、またの機会に。

平の渡しと徳川家康

滝山城の戦いの場面の中で、「平の渡し」という場所が登場します。この場所はまたの名を「大神の渡し」とも言います。まず、「渡し」とは、「舟などで人を対岸に渡すこと、またその場所」のことです。この「平の渡し」は、この昭島の地域で最も古い渡し場です。戦国時代には八王子と川越を結ぶ主要道路である「古川越道」であったため、昭島市周辺の戦国時代の歴史の重要ないくつかの場面に、この渡しは登場します。

『武蔵名勝図会』によると、戦国時代には3回、この渡しが登場します。

まずは、永禄十二（1569）年の滝山城の戦いの際、甲斐（山梨県）の武田信玄は、北条氏の領国関東に出陣、その支城滝山城を攻めるため多摩川をはさんで対岸の拝島に陣を張った、そしてその軍勢は、この渡しを渡って城を攻撃したと記されています。

また、天正十八（1590）年、豊臣秀吉の小田原征伐の際、上杉景勝・前田利家の率いる豊臣軍も、この渡しを渡って南下して八王子城を攻めた、とあります。

さらに、その後、関東に入国した徳川家康は、滝山城・八王子城の両方の城跡を見て回り、この渡しから川越方面に向かった、とも記されています。

教科書に登場する有名な戦国武将たち通った場所が、意外と身近な場所にあたりするのですね。

参考文献

- ・昭島市教育委員会(編), 2017, 『エリア別ガイド あきしまの歴史散歩』昭島市教育委員会
- ・前川寛, 2016, 『決戦！八王子城 直江兼続の見た名城の最後と北条氏照』揺籃社
- ・黒田基樹, 2018, 『ミネルヴァ日本評伝選 北条氏政 一乾坤を截破し太虚に帰す一』ミネルヴァ書房
- ・田中正光, 2007, 『よみがえる滝山城 戦国の風雲を駆けぬけた天下の名城』揺籃社
- ・田中正光, 2016, 『滝山城戦国絵図 中世城郭のからくり』揺籃社
- ・昭島市教育委員会編, 2009, 『路傍の文化財 増補第二版』昭島市教育委員会
- ・神奈川県立津久井湖城山公園『津久井城について』(最終閲覧日:2021年10月5日)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tsuikoshiroyama/history.html>

※園児や初等低学年では、読み解けないことが多数あります。保護者の方が読み聞かせをしたり、お子様がわかるようにお話していただく、などのご協力をしていただけるとありがたいです。

